

かもめはうす地域連携推進会議議事録

日時 2026年1月25日(日)

13:15～

開催場所 かもめはうすりビング

1. かもめはうすの概要

利用者の人数➡5名

利用者の障害程度➡障害支援区分5の方が3名 支援区分6の方が2名

利用者の皆様は皆、支援が非常に必要な方とされています。

経営状況等➡運営は国の給付によって賄っています。職員の手配等が困難で運営は赤字にはなっていないものの、かなり厳しい状況があります。

職員体制は現在 日中支援をしてくれている 常勤2名 非常勤1名

夕食支援をしてくれている方3名(内1名は体調不良でお休み中)

夜の泊りの方(断続的勤務) 4名

利用者の方がいる時間帯は全て支援者を配置しています。(24時間・365日型)

この形態のグループホームは横須賀市内では少ないです。現在横須賀市内には100ヶ所以上のグループホームが設立されていますが、株式会社立の多くは、軽度の方を対象としており職員の居る時間帯が限られているところが多いのが現状です。

横須賀市の指導監査課は書類が整っていれば認可するが、支援内容に着目してほしい。支援区分が5・6の人がいるということは様々な面で支援を必要とし人の確保も大変だと思う。

2 利用者の方の日常生活等

- ・日常の生活について➡介護保険との併用される方が出てきている。
- ・災害時の対策について➡「かもめはうす」は横須賀市の崖災害地域に指定されているため発災時の対応が求められ、横須賀市の指示に従ってマニュアルの策定を実施している。
- ・一次避難所は鶴久保小学校であるが、以前の方と比較して支援の手が必要であり、移動が困難になってきているため、かもめはうすは家屋の倒壊がない限り、かもめはうす内に止まることにしています。食料品やバッテリー・トイレ等の備蓄もあるため。
- ・消防団活動をしているが、以前は要援護者名簿に登録しているのはお一人暮らしの高齢者や高齢者世帯になっていた。様々な障害を持つ方も対象にすべきとの訴えを続け、少しずつであるが消防団が高齢者や障害者の支援を実施するようになってきている。要援護者名簿は町内会・町内民生委員に配布されているが、その活用についてはまだまだ課題がある。
- ・佐野の消防団を組織しているが、消防団の構成員も高齢化してきており、そこまでは手が回らない状況である。
- ・町内会の会員も高齢化していて自分の身を守ることで精一杯で、支援にまでは至らないが、

ここに障害のグループホームがあることは理解している。

- ・町内会館の3階に備蓄品がある。何かの時には活用してください。

3 外部の方から見て課題や改善すべき点等

日常生活に追われ、課題や改善すべき点や、地域との連携をどう図っていったら良いか等追いついていない部分が多くあると思いますので、率直なご意見をお聞かせいただければと思います。

- ・いつも利用者の方に声かけをしています。近隣に住んでいる看護師の方と災害時には支援が必要との話をしているが、自分たちの家族のこともありどこまで支援できるかわからない⇒ご自身やご家族のみの安全を第一にしてほしい。ここにグループホームがあることのみ理解をしておいていただければと思う。
- ・利用者さんが階段下でへたっている時があり、手を貸したが重たくて動かない。いざというときの車いすはグループホームで用意されているのか？⇒リビングに車いすは置いてあり確認していただきました。
- ・車の送迎時エンジンを切ってほしい。音がうるさいとの苦情がある⇒法人から関係のあると思われる人に注意喚起していく。

・炎天下、冬の寒い時等車中には利用者が載っており、エンジンを切れない事情もあることがわかりました。そのために、朝の到着時間・帰りの到着時間にかもめの職員が送る、待つという対応をまず実施することが決まりました。運転手は車を離れない。最短の時間で利用者の方をピックアップして移動することをまず試みてみます。それでも不都合が出た場合は、再度内部で検討しベストな方法を見つけていきます。

- ・裏に国有地があるので、災害時テントトイレの設置等に活用したらどうか？⇒現地を見て一度試してみる。
- ・この地域には各家に井戸があるので災害時活用したらよいのではとの提案を角井さんからいただく。⇒お湯を沸かしてご飯を温める等→一度職員と角井さんで確認
- ・利用者の方が日中生活されるようなら、介護包括型(かもめ)より日中支援型に変更したらどうかの提案をいただきました。⇒日中活動の場所(生活介護等)のほうが報酬が良い。休んだりすると介護包括型のグループホームであっても以前は3日目からしか算定できなかったが1日目からでるので、その方が良いでのその対応を実施しています。